

# 山陽小野田市教育長賞

## 「不注意が大火災に」

山陽小野田市立高千帆中学校 2年 平井 里奈

昨年12月22日に起こった「糸魚川大火災」のニュースを、誰でも一度は見ただろう。ニュースでは火災の様子が映像で映されており、画面に広がる灰色の煙と、ところどころに見える輝くようなオレンジ色の炎が印象的だった。私はこの大火災のことが今でも頭から離れず、「またあんな事が起こったらどうしよう。」と思っていた。しかし、この火災はニュースで見ただけなので詳しいことは分からない。だから、今回この作文を書こうと思った時に「この機会にあの時の火災について調べよう。」と思い、詳しく調べることにした。

調べてみると、あの大火災は1軒の中華料理店から発生した火が、強い南風に乗って、周囲の木造の家から家へと瞬く間に燃え広がったそうだ。また、約30時間にわたって燃え続け、最終的に約4万平方メートル、延べ144軒もの家屋を燃やし尽くしたらしい。出火原因は、中華料理店の店主が鍋を空焚きしたまま外出したことで、被害総額は少なく見積もっても30億円以上という高額である。

私はこのことを知って、驚くことの連続だった。まず、あの大規模な火災がたった1軒の店の不注意で起こったこと、火が消されるまで30時間、1日以上もかかったこと、144軒もの家が失われてしまったこと、そして30億円以上という高額の被害総額のこと。全て私にとっては「非日常」のことで、「被害を受けた人はどんな気持ちだったんだろう。」と想像するだけで精一杯だった。

今回の火災のように、何らかの不注意で起きた小さなことが、周りを巻き込み、大きく取り返しのつかないことに繋がることもある。この火災による死者はいなかったものの、もしかしたら尊い命が失われていたかもしれない。だから、このようなことがもう起こらないよう、一人一人が注意し、「もしも」の危険性を考えて過ごすことが大切だと思う。また、もし、火災が起きてしまった時の対処法や、避難の仕方などを日頃から知っておくべきだ。間違った対処法などをして、助かるはずだった命を落としてしまっただけではシャレにならない。学校などで行う避難訓練でも、近年、真面目に取り組まない生徒がほんのわずかだが、増えているように感じられる。もし本当に避難しなければならない状況になった時、訓練通りに避難できるのか、不安なところである。この大火災やその他の小さな火災などでの経験を機に、防火・防災への関心を深めてほしい。そして、私自身も防火・防災についての認識を、詳しく、正確に、改めていきたい。

